

さいたま
見沼

よみさんぽ

2024

Vol. 49

まち歩き 17 暗渠を行く3

まちに歴史あり，藤右衛門川流域をめぐる

まちに歴史あり、 藤右衛門川流域をめぐる

まち歩き「暗渠」シリーズの最後は、暗渠ファンによく知られている藤右衛門川流域に足を運びます。荒川水系一級河川の藤右衛門川。地元では谷田川とも呼ばれ、かつては鰻がとれ名物となり、今でも老舗の鰻屋が多くあります。藤右衛門川流域は谷が無数にあることから豊富な支流群があり、変化に富んだ地形で凸凹の密集エリアと言えます。まちの歴史に思いを馳せながら、いくつかの水系を辿って流域を歩きます。

洪水被害をうけ、治水化された藤右衛門川流域

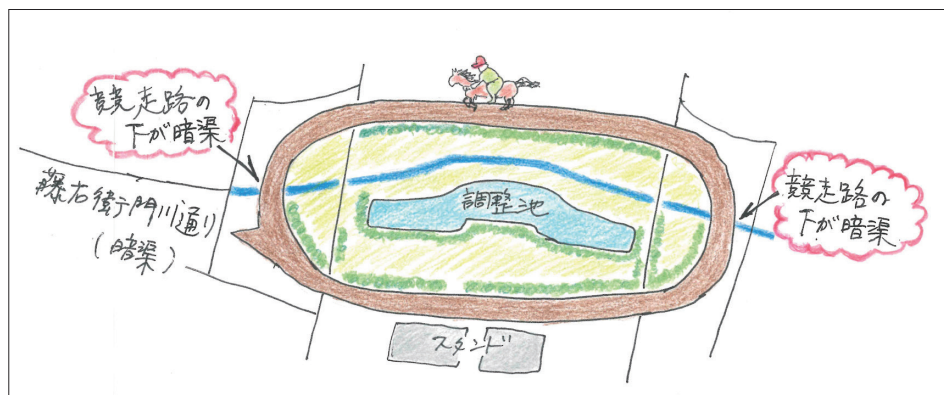
もともと耕作地が広がっていた旧浦和市。かつて藤右衛門川は米作に役立ち、小魚類も棲息する川でした。高度経済成長期以降は都市開発が進み、藤右衛門川流域一帯も急速に宅地化が進み、住宅が密集したことで行き場を失った雨水が藤右衛門川や河川に集中し、大雨が降る度に川が氾濫するようになります。1958年の台風で多くの浸水被害を受けた住民は、治水化を求めて同年「谷田排水路改修促進会」を立ち上げ、地元自治会と県・市行政と一体となって水害防止対策に取り組みます。

藤右衛門川改修までの歩みを記した「藤右衛門川改修記念工事 わが街25年の歩み」によると、「昭和33年には180戸、720人で全体の90%が農地だったのに、7年後の昭和40年には550戸2300人で全体の80%が宅地に変わってしまった」と記されています。家屋への浸水被害も1958（昭和33）年の台風の時は300戸だったのに対し、1965～1966（昭和40～41）年の度重なる豪雨ではいずれも1,000戸を超えています。谷の多い土地柄、雨水が溜まりやすく、住民たちは頻繁に洪水に見舞われていたのです。

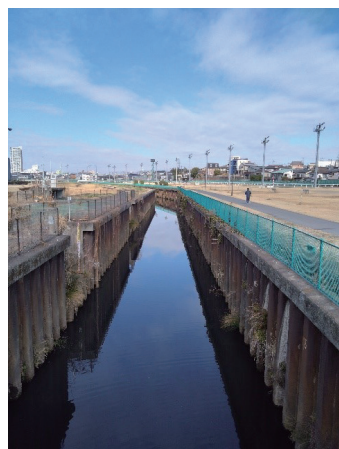
1973（昭和48）年に水害氾濫地域の防止対策として雨水幹線工事（暗渠化工事）が進められ、1981年に改修工事が完了。暗渠化にあたっては木蓮や椿、ツツジ、さつきなどを植樹し、環境美化に貢献したことも記され、住民たちの声が暗渠化を推し進め、まちの景観を創ったことが読み取れます。

浦和競馬場を貫く藤右衛門川

JR京浜東北線与野駅から浦和駅辺りを上流部とする藤右衛門川流域は、与



野駅，北浦和駅，浦和駅の東側を中心に細流支流が縦横無尽に巡っています。与野駅東口周辺を上流域とする天王川水系と，木崎辺りから浦和駒場運動公園に向かって流れてくる^{じんが}神花雨水河川と^{だいとう}大東雨水幹線が，細流支流を集めながら駒場と本太の境あたりで合流します。そして，浦和駅東口辺りから流れる日の出川水系とも合流して一本の藤右衛門川となり，南区の浦和競馬場へ流れていきます。藤右衛門川通りと名付けられた暗渠は競馬場手前で開渠になり，馬場では競走路の下を^{じんが}通って真ん中を開渠で貫き，場外へ抜けて川口の芝川に流れます。その距離およそ8キロ強。実に壮大な流路のつながりです。



競馬場を貫く開渠

競馬場はレースのない日は一般開放されており，トラックの内側は公園として整備され，ランニングやウォーキングなど思い思いに過ごすことができます。馬場を流れる藤右衛門川は競走馬が走るトラックで蓋をされていますが，真ん中を貫く開渠は鉄鋼で補強され水の流れが見えます。洪水の時には大量の水を一時的に溜められるよう調整池も造られており，治水の重要拠点でもあります。

さいど 道祖土小学校の校庭を貫く暗渠と暮らしの跡

藤右衛門川流域は，コンクリートや鉄板などで塗装され蓋をされた暗渠，木蓮やツツジ，椿などが植樹された遊歩道，はしご式の開渠，護岸の割れ目から水が湧き出ている開渠など多彩な姿を見せてくれます。暗渠サインの車止めも



写真左から
密集する車止め
駒場運動公園脇の暗渠

さまざまで、狭い小径に複数のポールが密集していたり、不自然に斜めに設置されていたり、サッカーボールのマークがあったりと目にも楽しく歩けます。

暗渠は学校のグラウンド下を通っていることも多く、大東雨水幹線にある道祖土^{さいとど}小学校は、校庭を横切るようにコンクリートで蓋をされた暗渠が通っています。住宅地を流れてきた流路が、校庭端のU字溝に流れる湧水を集めながら暗渠となって貫いているのです。U字溝には校庭の端の数か所から湧き出す水が流れ込み、ザリガニが棲息していると言います。



校庭を貫く暗渠



井戸の跡

校庭を横切った暗渠は、駒場運動公園の裏手へ流れる開渠へと姿を変えていきます。公園裏の開渠ははしご式の開渠になっていて、金網に沿うように枯れ枝を踏みながら分け入っていくと、護岸から湧水が流れ出ているポイントがあり、水も比較的綺麗で流れる音が心地よいです。

周辺を散策すると、井戸から水を汲むポンプを発見。水道が普及する前はほとんどの家庭に井戸がありました。かつての暮らしの名残を発見するのもまち歩き醍醐味です。



金網で閉じられた支流の暗渠

細流支流を感じながら，目にも楽しい暗渠

駒場運動公園周辺へ流れつく神花雨水河川と大東雨水幹線。住宅地の間をぬうようにくねくね、くねくね……。狭い小径と通りが交差するポイントには、車止めのポールが何本も密集して立てられ、身体を捻りながら通り抜けます。古さを感じるコンクリートや鉄板で蓋をされた場所、金網で整備され通り抜けできない暗渠もあり、くるくる表情が変わります。狭い小径も多く、何だか、そこで暮らす人たちの日常に紛れ込んだように錯覚します。

一方、天王川水系は遊歩道として整備され、蛇行しながら煉瓦色のコンクリートなどで蓋をされた通りが続きます。天王川はかつてフナやドジョウ、鰻がとれ、名称の由来も夏に流行る疫病を封じる牛頭天王^{こず}からきていると言われていいます。遊歩道の一部は天王川コミュニティ緑道として整備され、かつての河川には小魚類が棲息していたことを想像できるよう魚や蛙のマーク、川筋や橋が施されています。遊歩道の周辺には金網で閉ざされたコンクリートの蓋暗渠や細い開渠があり、細流を感じさせます。谷の多い藤右衛門川流域、まだまだ細流支流を感じる暗渠がありそうです。

3回にわたる暗渠めぐりとなったまち歩き。川の痕跡を探したり、地形の凸凹を感じたり、かつての暮らし跡を発見したり……。日常に紛れこむような暗渠めぐりは、まちを見る視線を変えてくれます。地上から見えない水路の世界はまだまだ奥深く、調べて、歩いて、感じて。まちの歴史と暗渠の魅力を感じるまち歩きでした。（記・イラスト 三石麻友美）
参考)

- ・浦和市・谷田排水路改修促進会：藤右衛門川改修記念 わが街25年の歩み 谷田川河川史；1982
- ・本田創ほか著：はじめての暗渠散歩；ちくま文庫，2017



かつての河川を思わせる側溝と橋

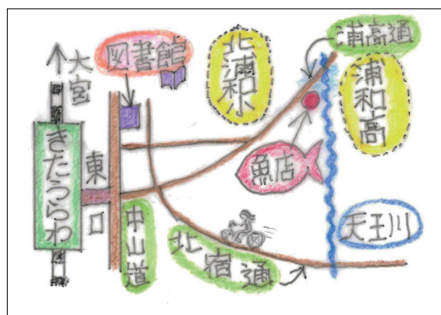
暗渠こぼれ話：天王川通りはむかし

天王川という名まえを知ったのは、1974（昭和49）年に開館した、北浦和図書館に勤務していたときです。児童室に来る子どもたちから聞いた「てんのがわ」——これが「天王川」で、図書館近くを流れる川だということは追々知るのですが、かつてはウナギもとれたという流れも、昭和50年代前半には「どぶ川」となっていました。これが＜住民泣かせの川＞だということも追々知ることになります。

天王川は藤右衛門川の上流で、幅2メートルほどの小さな川ですが、集中して雨がふるとすぐに浸水被害が出る＜はん乱川＞でした。私が見たのは、浦高通りが冠水している光景です。大型バスはともかく、二輪車や歩行者が天王川を渡るのはとても困難な状況で、川のそばの家や店にも水が入り込んでいました。魚店は商売がら長靴をはいていたからか、傍目にはとても落ち着いているように見えたのですが、当事者としては困り果てていたはずです。

1967（昭和42）年の市報でも、天王川は藤右衛門川とともに＜浦和市の水害常習地＞と指摘されています。その後、藤右衛門川は改修され浸水被害から解放されますが、天王川は相変わらず＜はん乱川＞のまま、改修プランも示されなかったので、1979（昭和54）年5月、天王川流域住民たちは市長に直訴しました（「埼玉新聞」）。記事によれば、この年は既に3度も浸水被害があったとか、＜雨のため不安な生活を送っている＞という住民の訴えはもっともなことです。

1986（昭和61）年、「埼玉新聞」に＜天王川通り工事終え渡り初め＞という記事——やっと暗渠化が終えたようです。はん乱川から遊歩道へ、長い道のりでした。（記・イラスト 並木せつ子）



駒場の天王川に掛かっていた土橋と本太幼稚園児（浦和区・昭和39年）、今は暗渠遊歩道に。（『写真が語る さいたま市の100年』いき出版 2021年刊 より）



深谷ネギで「ぬた」を作り「つみっこ」にたっぷり入れて食べる

埼玉県はネギの生産を誇りますが、薬味としての出番が多い食材です。今回は「ぬた」を作り、立派な副菜に変身してみます。まずネギは斜め切りとぶつ切りにしてから蒸しました。辛子酢味噌で一品は彩りよいカニカマと和え、もう一種の太いネギにはそのままかけました。これなら深谷で披露宴など祝いの席の締めくくりに登場したことも納得できます。

本庄地方ではすいとんを「つみっこ」と呼んでいます。「つみっこ」は「つみとる」という意味の方言で、地域により「とっちゃんげ」「つめっこ」あるいは単純に「だんご」。小麦文化が根付いた埼玉県では、うどんより手間がかからず忙しい時に重宝したのが「つみっこ」です。水で溶いた小麦粉を少し寝かせる間に野菜たっぷりの汁を作りました。手早く摘み取るようにちぎって汁の中で煮ます。確かに今回もっては(とっちゃん)鍋になげ入れました。「つみっこ」の食感はもちもち、(水の加減で変わります)深谷ネギのとろとした口あたりはなんとも言えず、つみっこ汁を美味しく食べることができました。

(記 浅見 典子)



写真左：深谷ネギは蒸すと甘みが増します。辛子酢味噌で和えたりかけたり……

写真下：つみとって(とっちゃん)、根菜類・椎茸・油揚げを煮た汁の中になげいれ、三ツ葉を加えていただきます



キッチンカーがもたらしたものの

それぞれが持ち寄って

このキッチンカープロジェクトは、大小様々な寄付金があつてこそ実現に漕ぎ着けたことは間違いありません。この善意は大きなものでしたが、コロナ禍に起因するウッドショックや、物価高の中では、少々心許ないものでした。しかし、幸いなことに自らの技術やリソースの提供を目的に企業の協力を得ることによって、不安を払拭することができました。キッチンカーは目立つほうが営業的に有利です。また、協力してくれる企業にとっても、それぞれが持つ技術を活用しアピールできるものになりたい。私はそれらに、オリジナルのキッチンカーの設計を行うことで応えました。

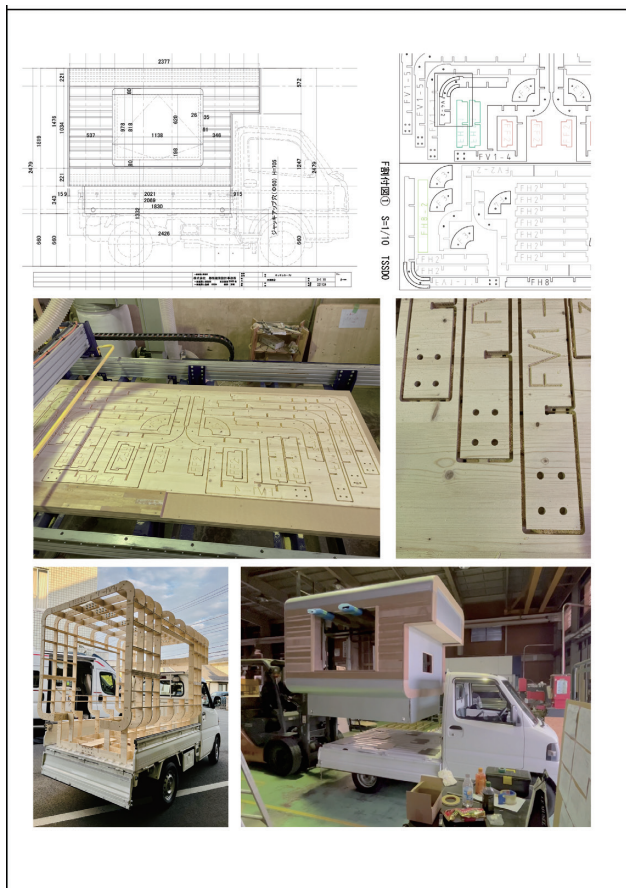
それでも作業は楽しく

オリジナルの設計故に想定外も多く、ワークショップと称した組立のイベントは、ドタバタしたものとなりました。それでも、みんなで和気藹々^{あいあい}と作業したことは、良い思い出です。作業の合間に、ルポーズの仲間たちが振舞ってくれたカレーの味は今でも忘れません。このプロジェクトを通して、熊谷市の木材会社「大和屋」は、新規に導入した木材加工機械の実験台として関わってくれました。寸法通りの加工では上手くいかないことに気づくことができ、有意義なデータが取れたようです。石川県かほく市の金属加工メーカーである「Tプロダクト」は、細かいパーツの加工などに様々な助言とサンプル作製で応えてくれました。その検討を通して社内の結束が高まったと聞いています。

これからのこと

2024年元旦、能登半島を中心とした北陸を襲った地震。多くの人が日常と同時に、生業も失ってしまったと思います。Tプロダクトは被害に遭わずに済んだようです。むしろ、キッチンカーづくりやそれで経験したことを元に、地域振興に繋げたいと意気込んでいました。オリジナルの物として設計し、皆で

作ったキッチンカー。製作時に見つかった反省点も、設計に反映して進化させています。オリジナルの物を作ることは、寄付金に見合ったものを入手するよりもまわり道になったかもしれません。でもこの行為にこそ意味があったことになるよう未来につなげていくことが、私の寄付をはじめとするご厚意に対する恩返しだと思っています。



とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975 年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く

つなぐ・つくるプロジェクト・17



自然の潜在能力を活かし、植物の本来の 生き方に向き合う

エシカル cafe としょかんのとなり（以下、となり）では、“エシカル”に基づいた商品や食材を提供することを大切にしています。具体的には、できる限り生産者の顔が見える商品や、環境に優しい食材を使用し、生態系や地球環境に配慮することを意識しています。

となりに季節ごとの野菜を提供してくれているのは、やどかり農園。今回は、やどかり農園の活動と、協働で実施したイベントをご紹介します。

自然から学び、自然を尊ぶ

やどかりの里の働く場の1つ、やどかり情報館（見沼区染谷）で取り組むのがやどかり農園です。2014年から見沼区御蔵で荒廃農地の開墾を開始し、2015年4月からやどかり農園として活動を開始しました。やどかり農園では、化学肥料や有機肥料を一切使わず、土壌の自然の力と生態系のバランスに頼って作物を育てる無肥料・自然栽培で、固定種や在来種の野菜を中心に育てています。自家採取した種からの栽培にも取り組みながら、50品目、80品種を越える野菜を栽培。

自然の力と向き合う中では、昨今の異常な暑さや台風、豪雨という厳しさもあります。無肥料・自然栽培の実践は簡単ではありませんが、環境や食べてもらう人の体に優しい野菜を届けたいという思いで、試行錯誤しながら取り組んでいます。

手前味噌づくりワークショップ

2024年3月20日（祝）、となりにやどかり農園の「味噌づくり教室と“となり”ランチ」を開催しました。昨年に続いて2回目となる今回は、とたりも白米と

玄米のおむすびとやどかり農園の野菜と味噌をたっぷり使った味噌汁，副菜のワンプレートランチを提供。

昨年はやどかり農園の自然栽培大豆を使用した味噌づくりでしたが，残念ながら今年大豆は不作だったため，自然栽培大豆を仕入れて行いました。2か月の赤ちゃんから大人まで，14名が集まり，和気あいあいと味噌づくりを満喫。昨年参加された人がお友だちを誘って参加してくれるなど好評で，申し込みから3日で満員になりました。



となりのワンプレートランチ



味噌を踏み踏み

子どもも大人も楽しく味噌を踏み踏みしつつ，約2時間。大豆と天然塩，糀に加え，それぞれの手で育まれている常在菌をしっかりと混ぜこみ，味噌の仕込みを完了。美味しく食べられるまでの約半年間は，味噌が参加した皆さんのうちの空気を感じながら，じっくり醗酵する期間。きっとおいしい手前味噌ができあがることでしょう。

やどかり農園では，作業体験や援農ボランティアも募集し，一緒に作業しています。自然栽培に関心のある人が時間のある時にボランティア参加してくれたり，ボーイスカウトの子どもたちが芋ほりを手伝ってくれたり……と，農を通して新たな出会いにつながっています。自然栽培を通して自然や植物本来の力に触れること，またそこから生まれる野菜の味わいが，多くの人に「人と笑顔をつなぐ」ことを伝えていけたらと思います。

(記 宗野 文)



おいしいお味噌ができますように

大事な話し相手，喜々と楽々

話し手 辻野 操さん



やどかりの里にやってきた2頭のヤギ，喜々と楽々。ご飯をあげたり小屋の掃除をしたりと，日々のお世話は欠かせません。

日替わりで担当するお世話係の1人が辻野操さんです。普段はエンジュ（高齢者向け弁当を作るやどかりの里の事業所）で働く，やどかりの里のスタッフです。

辻野さんが当番を務める月曜日，ヤギ小屋からは「おはよう～」「お腹空いた？」，喜々と楽々に元気に話しかける声が聞こえてきます。幼い頃からヤギと触れ合ってきたという辻野さんにお話を聞きました。

—お世話係になったきっかけを教えてください

「ヤギのお世話係をやってみない？」と声をかけてもらったんです。ただ，ちょうど愛犬を亡くした時で，正直迷いがありました。情がわいた時，その存在を失うのはあまりに悲しい。だから最初は，喜々と楽々にも距離を置いて関わろうと思っていました。でも実際に接してみると，やっぱり可愛いですね。当番の前日から，2頭にあげるにんじんを切って準備しています。

—ご実家でもヤギを飼っていたんですね

福島の実家では，牛，ヤギ，ニワトリなど動物を飼っていました。私がいた頃ヤギは2頭いて，今でもいとこの家でヤギを飼っています。ヤギのミルクも飲んだことがありますよ。味はちょっと苦手ですけど……

—ご実家のヤギと喜々と楽々，何か違いはありましたか？

実家のヤギは大人しくて，名前を呼べば寄ってくるような人慣れしたヤギでした。喜々と楽々は大きくて，頭突きされたりタックルされたり，慣れるまで



二頭が大好きなニンジンを話しかけながらあげる辻野さん

はたいへんでしたね。ヤギ小屋はどうしてもスペースが限られているので、怪我をしないように気を付けていました。

あとは実家のヤギは水嫌いだけど、当たり前のようにシャワーを浴びていたんです。喜々と楽々もお風呂に入れてあげたい。でもいかんせん体が大きいので難しそうですね。

—いつも楽しそうに話しかけている姿が印象的です

喜々と楽々は、今では大事な話し相手なんです。「おはよう」から始まって、「ちょっと聞いてよ、こんなことがあってさ」と愚痴も聞いてもらっています(笑)。誰も信じてくれませんが、楽々は“お手”もしてくれるんですよ。機嫌が良い時に限りますが……

—お世話係として大切にしていることはありますか？

動物も人間と一緒に、コミュニケーションが大事。マスク社会ですが、マスクをとって、目を見て話すようにしています。いけないことをした時にも、きちんと目を見て「駄目だよ」と言います。言葉は話さないけれど、こちらが言うことを理解してくれている気がしますね。

喜々と楽々と接する姿は、まるで母親のよう。「美味しいものを食べて、運動量が少ないので太りすぎ」という声も、2頭への愛情があってこそ。お世話係や地域の方から日々愛情を注がれ、喜々と楽々は今日も元気に鳴いています。

(記 萩崎 千鶴)

おかげさまで 創立 50 周年

トク お役に立ちたくて50年。そして明日も、

建物総合管理 (設備・清掃・警備・管理運営 建築工事・設計 大規模修繕工事 PMA業務)

M 毎日興業株式会社 **50**

〒330-0842
埼玉県さいたま市大宮区浅間町 2-244-1
TEL : 0120-156-365 (平日 8:30~17:30)
https://www.mainichikogyo.co.jp

パートさん
募集中!!



片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています

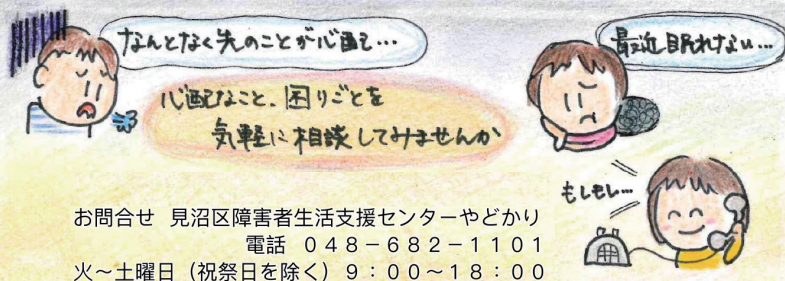


048 (686) 8601

開設時間

月曜日～金曜日

10時から16時



お問合せ 見沼区障害者生活支援センターやどかり

電話 048-682-1101

火～土曜日(祝祭日を除く) 9:00~18:00

やどかりの里から寄付のお願い

日頃よりやどかりの里の活動へのご支援、ご協力ありがとうございます。見沼田んぼを華やかにしてくれる桜もそろそろ葉桜の季節を迎えます。

本紙をご愛読いただきありがとうございます。どうしたら毎月入手できるのかなどの声もいただき、「よみさんぽ」ファンがじわじわと広がってきていることをうれしく思います。やどかりの里の各事業所にありますので、ぜひ「よみさんぽ」の最新号をお求めに足を運んでみてください。

さて、やどかりの里は2025年に55周年を迎えます。55年の道程は平坦ではなく、その時々さまざまな困難があり、多くの方たちの応援で今があります。やどかりの里は、精神障害のある人たちへの福祉的な制度がない時から取り組み、そこにニーズがあれば、そのニーズにどう応えるのかということから始まりました。本紙で毎月ご紹介している「未来を拓く つながりをつくるプロジェクト」は、まちのなかで必要な支援に結びつかず、困難の中にいる人たちに何かできることはないかと始めた取り組みです。公的な支援はなく、自己資金づくりが必要です。ぜひ、ご寄付をご検討いただけないでしょうか。ご寄付とともにその寄付に込められたお気持ちにやどかりの里は励まされています。なお、やどかりの里への寄付は税額控除が受けられます。

公益社団法人やどかりの里 理事長 増田一世

金額 1口3,000円～

郵便振替・口座振り込みもごさいます

詳しくはやどかりの里法人事務局までお問い合わせください。

E-mail : honbu@yadokarinosato.org TEL 048-686-0494



寄付フォーム

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。

野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを探求して新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL:048-854-6890 FAX:048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

編集後記

まさか競馬場に暗渠があるなんて……！

レースが開催されていない一般開放日。競馬場に足を運ぶと、広い敷地が目の前に飛び込んできます。場内にはヘリポートもあり、競馬場には競走路しかないとの思い込みが碎かれます。

競走路はグラウンドを囲うように走っていて、砂は少し深めで柔らかく、歩くと足をとられます。蓋をされた藤右衛門川（暗渠）の上を競走馬が走り抜けていく……。その光景を想像するだけで、何だかワクワクします。この感覚が暗渠めぐりにハマってしまう理由なのかもしれません。

（表紙写真・記 三石麻友美）

よみさんぽのあるやどかりの里の事業所

- やどかり情報館 見沼区染谷 1177-4
- エンジュ 見沼区南中野 286-1
- すてあーず 見沼区南中野 844-22
イエローハウス
- あゆみ舎 大宮区堀の内町 1-37
一武ビル 1 階
- 喫茶ルポーズ 大宮区天沼町 1-136-2
- 見沼区障害者生活支援センターやどかり
見沼区南中野 467-1 スガヤハイツ 105 号
- 大宮区障害者生活支援センターやどかり
大宮区東町 1-141-6 第二吉田ビル 1 階
- 浦和区障害者生活支援センターやどかり
浦和区北浦和 5-6-7 レジデンス北浦和 104
- エシカル Cafe としょかんのとなり
見沼区堀崎町 48-1

よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisampo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第 49 号

発行 2024 年 4 月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷



公益社団法人やどかりの里

やどかり出版



公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同